



©Kosuke Nagata

Seeing Things

須賀悠介 永田康祐 山形一生

9/2 Fri – 9/15 Thu

11:00 – 20:00

Opening Reception 9/2 18:00-20:00

Closed on Monday

Last day – 17:00

この度、tokyoarts galleryにて須賀悠介、永田康祐、山形一生の3人によるグループ展を行います。3人に共通するのはいずれも3DCGを何らかの方法で制作に用いる、という点にあります。3DCGは映像メディアを中心に映画産業、ゲーム業界などで発展してきましたが、近年では3DCGを扱うソフトは廉価もしくは無料になり、専門職以外の分野をはじめ、アートの領域でもより扱いやすいものとして普及してきています。3DプリントやVR技術などが広く一般化している昨今において、3DCGがもつ役割は写真が発明されたときと同様もしくはそれ以上に、物質やイメージなどの関係を揺るがし、我々の生活環境を大きく変えつつあると言えるでしょう。

3DCGを含めたコンピューター技術自体は、今後も非常に速い発展/消費のされ方をし続けるであろう分野ではありますが、アーティスト3人によるこの展覧会は、単純な技術の発展や消費にとらわれない、ある種の批判的側面をもったものになることでしょう。

ステイトメント

"Seeing things"

多くのイメージがある。ポストに押し込まれるダイレクトメール、駅前のビル広告、グラビア、Google ストリートビュー、SNS フィード、その他すべて。

これらのイメージは、その歴史的な履歴を失ったまま、私たちに提供される。これらは、その出自を明らかにしない。加工されたものなのか、実写なのか合成なのかといった、その製造のプロセスを欠いたまま、ただ設置されているのだ。こうしたイメージたちはすべて、事実性とは無関係である。ただそこにあるのだ。

これは、イメージが虚構的であるということではない。イメージが、虚構であるかどうかということとは無関係に、それ自体としてあるということだ。

私たちは、歴史的写真とされているものにどれほどのコラージュ写真があるのか知らないし、ハリウッド映画がどこまでコンピュータ・グラフィックスで作られているのかも知らない。私たちは、舞台セットの上でさえ起こらなかった出来事を、実際に起こった出来事と区別しないままに、体験しているのだ。

これは今に始まったことではないが、しかし、明らかに加速している現実でもある。イメージは事実の彼岸に行き、もはや見ることは信じることではないのだ。

私たちは、幻を見ている。

参加作家

Yusuke SUGA / 須賀悠介

1984年 東京都 出身

2010年 東京芸術大学大学院美術研究科修了

Kosuke NAGATA / 永田康祐

1990年 愛知県 出身

2014年 東京芸術大学大学院美術研究科建築専攻修了

Issei YAMAGATA / 山形一生

1989年 埼玉県 出身

2015年 東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程 入学

tokyoarts gallery

東京都渋谷区東2-23-8

Tel.03-6427-6665 info@tokyoarts.com www.tokyoartsgallery.com

tokyo
arts
gallery